Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-04

韓国における中国朝鮮族の生活と社会意識

金，明姫
浅野，慎一

(Citation)
神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要,6(1):53-62

(Issue Date)
2012-09

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81004271

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81004271

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 研究紀要 第6巻 第1号 2012
Bulletin of Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University, Vol.6 No.1 2012

研究論文

韓国における中国朝鮮族の生活と社会意識

The China Korean's Life and Social Consciousness in South Korea

金　明姫*　浅野慎一**
Mingji JIN*　Shinichi ASANO**

要約：本稿の課題は，中国朝鮮族の韓国への移動がもつ社会的意義を，東アジアの社会変動との関わりで，また当事者の労働・生活と意識の実態をふまえて考察することにある。1980年代以降，中国・極東アジア全体の社会・経済変動の渦中で，多数の中国朝鮮族が中国東北地方の朝鮮族集住地域から流出しつつある。筆者は韓国に移動・在住している中国朝鮮族の出稼ぎ者（親戚訪問・偽造結婚・短期旅行・偽造パスポートによる商務等）と留学生を対象に，面接によるインテンシヴな聞き取り調査を行った。韓国への出稼ぎと留学は，いずれも根底的には世界資本主義，特にグローバリゼーションに伴う資本と労働の国際移動の一環である。また，中国朝鮮族の「故国」とされる韓国への，言語（朝鮮語）を文化資本とした主体的・選択的な移動であるという点でも共通している。しかし，中国朝鮮族の生活・意識・文化は，決して一枚岩ではなく，経済的な階層格差の拡大，及び，国家の法的規制に基づき，明らかに拡散・分極化しつつある。それらはいずれも国家（中国）と民族（朝鮮）という2つのネイションを，自らの生活・将来展望の資源・手掛かりとして活用していこうとする2つの異なる主体性の発現形態といってよい。

1．課題の設定

本稿の課題は，中国朝鮮族の韓国への移動がもつ社会的意義を，東アジアの社会変動との関わりで，また当事者の労働・生活と意識の実態をふまえて考察することにある。

(1) 中国朝鮮族の概況

中国朝鮮族は中国の少数民族で，総人口は2010年現在で約192万人[1]，主に東北地方（黒龍江省・吉林省・遼寧省）に居住している。19世紀中葉～1940年代にかけて，朝鮮半島の自然災害，日本による朝鮮半島植民地化等の影響で中国に移住した人々とその子孫である。

中国朝鮮族は，抗日戦争，国共内戦，そして朝鮮戦争への積極的参加により，中国では政治面で模範的な少数民族としての地位を獲得してきた。また1980年代まで，漢民族と比べても高い学歴水準や経済的安定を確保していた。さらに中国政府は少数民族の文化を保護し，社会的にも様々な優遇政策をとってきた。そこで中国朝鮮族は中国移住後も朝鮮語で日常生活を営み，朝鮮族どうしで通婚し，学校教育も朝鮮語で行ってきた。中国東北地方には多数の朝鮮族集住地域があり，吉林省延辺には朝鮮族自治州も設けられている。こうして朝鮮族は中国内で独自の民族文化・民族社会を維持・再生産してきたのである。

しかし，中国朝鮮族が少数民族であることにかわりはない。国民国家としての中国，特に国家権力の中枢において朝鮮族の影響力は限られたものでしかない。集住地域も，ある意味では自民族だけからなる閉鎖的空間であり，そこに暮らす限り，多民族国家・多民族社会の実感は希薄であった。

そして1990年代以降，グローバリゼーションと市場経済化の中で，中国朝鮮族の生活と社会は巨大な変貌の渦中にある。従来，中国東北地方は重工業の国有企業の一大集積地だったが，そのほとんどが経営危機に追い込まれ，リストラが強力に推進された。外資の投資が相次いだ沿海部大都市とは対称的に，東北地方は経済発展から取り残された。中国社会科学院は「中国の都市貧民の4分の1は東北地方にいる」と指摘した[2]。2003年，中国共産党は，東北地方の経済停滞を国家的な重大問題と位置づけ，工業振興策を提示したが，その成果はまだ現れていない。こうした中で，中国朝鮮族の生活も急速に不安定化した。信頼できる統計は存在しないが，現地の生活実感によれば，朝鮮族自治州の実質的失業率はおそらく5割を下回ることはない。

こうした経済的苦境に加え，東西冷戦の終焉も相俟って，中国朝鮮族の人口流出が多様な形で急増した。ソ連崩壊を契機とした

*　中国江南大学外国語学部講師
**　神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授

（2012年4月1日　受付
2012年6月29日　受理）

ロシアへの「風呂敷商売」(生活雑貨の行商),中韓国交樹立(1992年)に伴う韓国への出稼ぎ,日本の留学生受入拡大政策(1990年,アルバイト就労規制の緩和等)に端を発する日本への留学・就学,そして外資で繁栄する中国沿海部大都市への就職・出稼ぎ等である。

日本への留学・就学も,移動先でのアルバイト就労を不可欠とし,貯金・送金を可能にするという意味で「出稼ぎ」的要素を含む。またそれは,中国に進出した日系企業への就職を視野に入れた将来へのステップでもある。1990年代末以降,日本に向かう中国人就学生全体の中で東北地方出身者は過半数を占めるまでに急増したが,そこには多数の朝鮮族が含まれていた[3)]。

韓国への移動者は,初期は親戚訪問ビザで入国し,超過滞在で働く出稼ぎ者が多かった。その後,研修・労務・短期旅行,また偽造パスポートによる商務・旅行等,出稼ぎの入国方法は多様化してきた。また韓国では,少子化で学生不足に悩む地方大学が,留学生を積極的に受け入れている。そこで留学も,中国朝鮮族にとって,韓国への主な移動方法の一つとなっている。

こうして日本と韓国は,中国朝鮮族にとって主要な海外移動先となった。同時に中国朝鮮族は,日本にとっては留学生・就学生の大きな供給源,また韓国にとっては外国人労働力・留学の最大の供給源となったのである。

このような中国朝鮮族の人口移動の実態を示す正確な統計は存在しない。それは中国における一般的な行政統計の不備,特に民族別統計の乏しさに加え,かなりの移動が非合法で行われているからである。しかし各種推計によれば今日,東北地方以外の中国国内への朝鮮族の移動者は約20万人,国外で就労した経験がある中国朝鮮族も約20万人に達するとされる[4)]。いわば中国朝鮮族全体の約2割が東北地方以外に流出しているのである。世帯単位では,おそらく4～5割の世帯に移動者がいるとみてさしつかえないだろう。

一方,中国朝鮮族の流出と軌を一にして,中国国内のより貧困な地域から朝鮮族集住地域に漢民族が流入しつつある。その多くは,土木作業等に従事する出稼ぎ労働者,及び,農民である。こうして延辺朝鮮族自治州でも漢民族の人口比率が徐々に増加し,日常生活でも漢語(中国語)の必要性が高まりつつある。さらにまた近年,北朝鮮の経済危機に伴う脱北者の流入も急増している。

以上のように中国朝鮮族の集住地域は,東西冷戦の終焉とグローバリゼーションの進展に伴い,中国・韓国・日本・ロシア・北朝鮮にまたがる東アジア全体の社会変動の渦中で,大きな変貌を遂げつつある。

(2) 先行研究の検討と研究方法

さて中国朝鮮族については,中国,韓国,そして日本でそれぞれ一定の研究蓄積がある。

まず中国では,中国朝鮮族がいかに「中国国民」・「中国の模範的少数民族」になってきたかを検証する歴史研究,及び,中国の少数民族としての独特の文化に関する民俗学研究が多い[5)]。また中国の改革開放政策に伴う中国朝鮮族社会の変化やそこでの問題についての研究もある[6)]。一方,韓国では抗日独立運動の中で中国朝鮮族が果たした役割に関する歴史研究,及び,将来の南北朝鮮統一において中国朝鮮族が果たす独自の役割に関する研究,また朝鮮と中国の双方の文化を併せ持つ中国朝鮮族に関する民俗学研究がある[7)]。これらはいずれも,中国や韓国の国民国家形成,またはナショナルな文化的枠組を前提とし,その中に中国朝鮮族を位置づけたものであり,必ずしも中国朝鮮族の現実生活に根ざす独自性や主体性を捉えたものとは言いがたい。

一方,日本では近年,中国朝鮮族に関する文化人類学的研究,及び,社会学,経済学,言語学等の研究が活発化している[8)]。ただしこれらも中国行政当局が公表したごく限られた統計の分析,または固有の民族言語や文化慣習といった文化的観点からの考察が多い。1990年代以降のグローバリゼーションの渦中での生活と社会の現代的変化を捉える視点は希薄といわざるをえない。

本稿の執筆代表者はこれまで,日本に移動した中国朝鮮族,及び,中国東北地方に残された留守家族に関する調査研究を発表してきた[9)]。そこで本稿では,韓国に移動した中国朝鮮族の生活と意識の実態をふまえ,その社会的意義を考察したい。

素材とする調査は,2006年1～2月,韓国のソウル,インチョン市,スウォン市等で実施した。対象者は,韓国に移動・在留している中国朝鮮族の出稼ぎ者26名,及び,留学生15名,計41名で,いずれも面接によるインテンシヴな聞き取り調査である。調査研究の基礎的な方法論は,日本の地域社会学の伝統の中で培われた,生活過程分析に基づく社会変動論である[10)]。すなわち諸個人の生活史・生活過程・社会諸関係・社会意識をできるだけトータルに把握し,マクロな歴史・社会変動との関連で考察する。なお本調査はあくまで質的調査である。論述中,構成比・人数等の量的傾向に言及することがあっても,統計的意味をもたない。しかし同時に,質的調査である以上,諸事象の質的因果関係が明確に確認できれば,量的傾向も重要な目安となりうる。また本調査対象者,特に出稼ぎ者には後述する如く,不法就労者・不法滞在者を多く含み,したがって正確な公式統計は存在しない。対象者の選定に際しても,確定された母集団からの無作為抽出等は不可能であり,しかも調査の実施には調査者との深い信頼関係が前提となるため,機縁法に基づく。

2. 移動者の2類型――出稼ぎと留学

さて,前述のごとく,韓国に移動する中国朝鮮族は,①多様な出稼ぎ(親戚訪問・偽造結婚・短期旅行・偽造パスポートによる商務等),及び,②留学に大別される。

以下,それぞれの移動類型の調査対象者の特徴を分析しよう。(表1参照)

(1) 出稼ぎ者の移動

まず出稼ぎである。

出稼ぎ者の年齢は20～60歳代まで幅広く,女性が6割弱を占めている。中国での学歴は中卒が46%,高卒が42%でほぼ拮抗している。中国での職業は,労働者が4割,農民または無職が3割弱である。労働者といってもすでにリストラされ,またはその危機をひしひしと感じていた人が多い。農民も,離農して都市に出てきたが,仕事が見つからなかった人々である。彼・彼女らは,現

表１　出稼ぎ者と留学生の基本属性　(人)

		出稼ぎ者	留学生
年齢	20～30歳	2	9
	31～35歳	3	5
	36～40歳	1	1
	41～50歳	9	—
	51～60歳	3	—
	61～70歳	8	—
性別	女	16	11
	男	10	4
結婚	未婚	4	10
	既婚	22	5
最終学歴	小以下	—	—
	中学校～	12	—
	高校～	11	—
	専門学校～	2	3
	大卒～	1	12
職業	専門職・管理職	2	9
	事務・一般社員	5	3
	労働者	10	—
	農民	6	—
	自営業	1	—
	無職	1	—
	その他	1	3
移動の前の問題点（複数回答）	経済的に苦しい	18	—
	人脈がない	12	—
	子どもの教育の問題	10	—
	将来の生活が不安	10	6
	家族に無職の人がいる	10	—
	社会保障制度の不備	8	—
中国の社会問題（複数回答）	貧富の格差が大きい	18	13
	教育費が高すぎる	20	5
	医療費が高すぎる	19	5
	雇用が不安定である	16	1
	腐敗が多い	14	10
	社会の道徳が乱れている	14	3
移動の手づる	知り合い	7	6
	斡旋業者	15	1
	インターネット・公的募集	2	4
	韓国の親戚	2	3
	その他	—	1
移動費用（元）	無料	5	8
	１万以下	5	1
	3万～	2	2
	5万～	3	—
	7万～	7	1
	7万以上	4	3
移動方法	国際結婚	2	—
	親戚訪問	4	—
	韓国国籍回復	2	—
	偽造書類による移動	18	—
	留学	—	15
移動費用の捻出（複数回答）	貯金	4	5
	奨学金	—	2
	無利子の借金	9	1
	高利子の借金	7	—
	子女の援助	2	—
	その他	6	7
移動動機・目的（複数回答）	お金を稼ぐ	24	—
	視野を広げる	3	7
	学位の取得	—	12
	技術を身につける	—	4
	外国・韓国社会を理解する	3	5
計		26	15

資料）実態調査より作成

在の中国社会における貧富の格差の拡大を深刻な問題と感じている。また子供の教育費・医療費の高騰等，身近で具体的な経済問題に悩んでいた。そして「経済的に苦しい」，「人脈がない」，「家族に失業者がいる」，「子供の教育費が高い」，「将来が不安」，「家族の病気」等，多くの問題を感じており，それで出稼ぎに踏み切った。地元には就業機会がほとんどなく，出稼ぎは生活資金を稼ぐほぼ唯一の道であった。本人だけでなく，家族の多くが韓国に出稼ぎにきているケースも少なくない。

こうした出稼ぎ者の過半数は，非合法状態にある。調査時点では合法状態の人も，その後，超過滞在・資格外就労に移行する可能性が極めて高い。非合法の出稼ぎ者は，斡旋業者に平均７万元（約100万円）の費用を支払って渡韓し，しかもそれを月３～５％の高利の借金で払っていた。７万元は，中国在住時の約７～10年分の年収にあたる。斡旋業者に莫大な移動資金を騙し取られたケースも少なくない。そこで出稼ぎ者は，韓国に移動後，その返済のために，長期にわたって長時間労働を余儀なくされている。非合法の出稼ぎ者の７割はすでに５年以上，韓国に滞在している。「借金返済だけで３年かかった」と語る人もいる。

また，出稼ぎ者の７割強は既婚者だが，韓国人男性と偽装結婚したり，そのために元の夫と偽装離婚している女性もいる。元の夫や子供・親を含む家族の生活のために，家族と合意の上，あえて偽装離婚・結婚した人もいる。そこで，離婚率の高さは，必ずしも実際の家族解体率を示すとは限らない。ただし長期間にわたる出稼ぎによる別離生活が，夫婦の間に危機をもたらしているケースも多い。

(2) 留学生の移動

次に，留学生についてみる。

留学生は平均29歳と比較的若く，未婚者が７割弱と多い。今回の対象者は男性が４名，女性が11名である。彼・彼女らは，中国で大学を卒業し，大学講師や公務員，または韓国系外資企業の社員として勤務していたが，さらなるキャリア・アップと学位を求めて韓国に留学してきた。前述のごとく，中国東北地方は経済的に厳しく，管理職・専門職といえども不安定である。「公務員でもリストラが激しく，職場は不安定」との声もある。留学生は，現在の中国における沿海部と東北地方の経済格差を大きな問題と感じている。また官僚の汚職など政治権力と結び付いた格差の拡大，つまり能力・業績が正当に評価されないことに強い不満を感じている。こうした中で彼・彼女らは故郷での将来に不安を感じ，韓国で学位を取得し，視野を広げ，卒業後は韓国または中国沿海部で就職しようと考え，留学に踏み切ったのである。

一方，韓国側では，少子化に伴い，一部の大学が学生不足に直面し，積極的に留学生を募集している。韓国政府も，朝鮮族の「故国」として「同胞」である中国朝鮮族の留学生を積極的に受け入れている。親や親戚が出稼ぎや偽造結婚で先に渡韓し，その後，留学生を呼び寄せるというルートもある。

そして改革開放が進む現代中国では，経済・経営・理工学・IT関連等の諸分野への関心が高い。韓国はこれらの諸分野の「先進国」というイメージが強く，留学先として一定の魅力を有している。加えて近年，韓国企業が中国に大量進出しており，専門技術をもった人材への需要が増加していることも，韓国への留学を促進する要因となっている。

このような中国朝鮮族の韓国への留学は，同じ留学でも日本への留学とは，かなり異なっている。筆者はすでに日本への中国朝鮮族の留学生の生活と意識に関する実態調査研究[11]を行ったが，そこで得られた知見に基づけば，次のような違いは明瞭である。

すなわちまず日本への留学は，私費でのそれが圧倒的に多く，

しかも偽造書類作成を含む裏ビジネスを介在させ，莫大なコストがかかる。しかし韓国への留学は，先に渡韓した家族・知人，訪中した韓国人の教授，インターネット等を介し，比較的低コストである。

また日本への留学生は高卒者が多く，日本語学校または大学への留学が多いが，韓国への留学は大卒者が8割を占めるため，大学院に進学するケースが多い。言語的には同じ朝鮮語であり，9割弱の人が中国で高校まで民族教育（朝鮮語での教育）を受けているため，韓国で語学学校に通う必要もない。

これはいいかえれば，韓国への留学は，日本留学と異なり，新たな語学習得というメリットが少ないということでもある。そこで，低コストでなければ，韓国に留学するメリットが少ないのである。

3．韓国での労働・生活と諸問題

次に，移動先の韓国での労働－生活過程，及び，そこでの問題をみていこう（表2，3参照）。

(1) 出稼ぎ者の労働－生活過程

まず，出稼ぎ者である。

韓国で出稼ぎ者がつける職種は限られている。

女性は，主に住み込みの家政婦・ベビーシッター，または飲食店で働いている。収入は，家政婦・ベビーシッターで月80～100万ウォン（約8～10万円），子供の人数が多ければ120～140万ウォンほどである。飲食店は月100～130万ウォンだが，家政婦・ベビーシッターより労働時間が長く，仕事もきつく，差別にあうことも多い。そこで出稼ぎの女性は，たとえ収入が少なくても，家政婦・ベビーシッターの仕事を希望することが多い。ただし，莫大な借金の返済に追われ，どんなにきつい仕事でも給料さえ高ければやると語る女性もいる。

一方，男性は全員，建築現場で土木作業を経験している。一部は，出稼ぎ者の雇用・就労が法的に禁止されている製造業で単純労働をしている。月収入は80～180万ウォンで，現場のきつさ等によって差がある。

出稼ぎ者は，男女を問わず，長時間労働，仕事がきつい，休日が少ない，人間関係が悪い，仕事が危険といった多くの問題を指摘している。賃金の不払いも頻発しているが，不法就労のため，訴えることもできない。そして健康に支障を抱え，中には闘病中の人もいる。韓国では治療費が高いため，病気になっても病院に行けず，キリスト教会の無料診療所で診てもらうしかない。

出稼ぎ者は，職場で韓国人から差別された体験も多い。韓国人との賃金格差，きつい仕事をまわされるなどは，日常茶飯事である。韓国人とは同じ民族・「同胞」という意識があるため，差別の屈辱・不満を一層，鮮明に感じている。

さらに，出稼ぎ者は不法就労が多いため，摘発をおそれ，隠れまわる生活を余儀なくされている。「取り締まりが厳しい地下鉄は利用しない」と語る出稼ぎ者もいる。摘発を警戒して仕事を転々と変えるため，経済的にもますます不安定になっている。高齢の出稼ぎ者が，観光ビザで合法的に渡韓して就労を試みるケースもある。ただしその場合，高齢のため短期間では仕事が見つからず，超過滞在で違法化し，キリスト教会に住み込んで職探しを続けている。仕事がみつかっても，超過滞在になるのを避けようと，その仕事を中断して出入国を繰り返す人もいる。総じて韓国での就労・雇用は不安定で，出稼ぎ者の多くは，「経済的に貧困」，「将来の生活が不安」等の問題を強く感じている。

なお韓国政府は2004年以降，不法就労を減らすため，一定の条件下で外国人労働者の雇用を合法化する「雇用許可制」を導入した[12]。しかしこの制度は，事業者側からみると，韓国の最低賃金制・保険加入・正式の雇用契約等が義務づけられ，しかも手続きに時間がかかりすぎる。またすでに不法就労している出稼ぎ者は，「雇用許可制」に切り替えられない。そこで，実際に「雇用許可制」で合法的に採用される出稼ぎ者は限られている。

また韓国には1991年以来，外国人労働者を技術習得のための研修生と位置づける「産業研修生制度」[13]もある。しかしこれも，実際にはうまく機能していない。産業研修生の研修費（賃金）は，出稼ぎの不法就労の半分ほどに抑えられ，出稼ぎ者自身がそれを望まない。ある元産業研修生は，渡韓後，あまりの労働条件の悪

表2　出稼ぎ者の韓国での生活と諸問題

		人数
仕事の職種（複数回答）	家政婦・ベビーシッター	5
	飲食店	9
	土木作業	10
	製造業	2
	介護	2
転職回数	なし	5
	1～2回	7
	3～5回	6
	6～10回	3
	11～20回	2
	20回以上	1
	無回答	2
月収（万ウォン）	なし	5
	1～79	1
	80～100	6
	101～120	4
	121～150	7
	150以上	1
	無回答	2
住宅形態	賃貸地下室	7
	賃貸アパート	8
	住み込み	6
	教会	5
生活の問題（複数回答）	経済的に困難	18
	家族と離れて寂しい	14
	将来の生活が不安	14
	故郷の家族のことが心配	11
	差別がある	11
	子どもの教育が心配	13
	家族と一緒にいる時間が少ない	9
	故郷に送金できない	8
	自分の健康に不安	8
	家族の病気・障害	8
仕事上の問題（複数回答）	労働時間が長い	14
	仕事がきつい	15
	休日が少ない	10
	職場で人間関係が悪い	8
	仕事が危ない	7
	差別がある	6
	給料が低い	6
計		26

資料）実態調査より作成

さに研修先から逃亡し，不法就労になった。その際，莫大な違約金も取られた。さらに韓国政府は，超過滞在者の自主帰国を促進しようと，自主帰国の支援策を繰り返し実施しているが，これも不法就労・不法滞在を減らすことにあまり寄与していない。むしろ自主帰国者に再入国を認め，不法就労を一層容易にしている側面が大きい。

そして出稼ぎ者は，前述のように既婚者が多いが，夫婦が一緒に出稼ぎしているケースは少ない。また，不法就労が8割を占めるため，一時帰国も容易にはできない。渡韓に際し，斡旋業者に支払う金額も莫大である。そこで一旦出稼ぎに行くと，十分に稼げるまで帰国せず，夫婦は長期に渡って離れ離れにならざるをえない。「家族と離れて寂しい」，「故郷の家族のことが心配」，「故郷に残した子どもの教育や教育費が心配」といった悩みを抱える人が多い。そして少しでも早く金を貯めて帰国するため，出稼ぎ先では娯楽等に極力支出せず，安いアパートの地下室を借りて住む人が27%，家賃・食費を節約するために住み込みでベビーシッター・介護の仕事をしている人が23%を占める。ただしすべての出稼ぎ者が仕事にありつけるわけではなく，仕事もなく家賃も払えないため，キリスト教会に宿泊している出稼ぎ者も19%を占める。

表3　留学生の韓国での生活と諸問題

		人数
現在の在籍学年	修士課程	9
	博士課程	5
	その他	1
留学前の専攻	理工系	5
	文系	7
	その他	3
現在の専攻	理工系・IT関係	5
	文系	7
	その他	3
学校を決めた経過（複数回答）	有名である	5
	留学生の待遇がよい	5
	好きな専攻がある	5
	先生・知人の勧め	5
専攻を決めた経過（複数回答）	中国の大学での専攻と同じ	7
	将来・仕事に生かせる	8
	自分の関心に合う	7
学校・専攻の問題点（複数回答）	学費が高い	7
	英語を学んでいないので不利	5
	差別がある	4
主な月収	研究費・奨学金	4
	バイト	6
	家族からの送金	2
	その他	3
学費免除	全額免除	9
	一部免除	2
	免除なし	1
	無回答	3
住宅形態	賃貸地下室	6
	賃貸アパート	1
	学生寮	7
	その他	1
生活の問題（複数回答）	経済的に困難	4
	家族と離れて寂しい	6
	故郷の家族のことが心配	6
	子どもの教育が心配	5
	生活習慣・文化の差異	6
アルバイトの職種（複数回答）	中国語の通訳・翻訳	9
	中国語の家庭教師・講師	8
	その他	1
仕事上の問題（複数回答）	労働時間が長い	4
	勉強とアルバイトの両立が困難	8
計		15

資料）実態調査より作成

(2) 留学生の学習・労働－生活過程

次に，留学生についてみよう。

韓国への留学生は前述のように，大学院生が圧倒的に多い。大学院での研究内容はほぼ，中国の大学時代の専門を継承している。現在の大学を選んだ主な理由は，「有名大学だから」，「留学生の待遇がよい」，「好きな専攻がある」，「先生や知人の勧め」等である。総じて留学生は，現在の大学・専攻に大きな問題は感じていない。

ただし，留学生の多くが直面しているのが，「英語の壁」である。中国朝鮮族には，第一外国語が英語ではなく，日本語であった人が少なくない。中国東北地方は，日本による「満州国（偽満）」支配の影響もあり，第一外国語として日本語を教えてきた学校が多い。またたとえ第一外国語として英語を学んでいても，韓国人の大学生に比べると英語の水準が低い。そこで韓国の大学院のゼミ等で英文資料を扱う際，非常に苦労が大きい。

経済的には，韓国の留学生は大学院生が多いこともあり，日本への留学生に比べ，かなり恵まれている。奨学金・授業料免除を受けている人も多い。

もとより，研究費・生活費の双方を奨学金で全額まかなえる人は限られており，アルバイトは必要ではある。留学生にとって経済的負担は大きな問題で，彼・彼女らは勉強とアルバイトの両立に悩んでいる。また留学生も，家賃の安い学生寮や地下室に住み，娯楽にはほとんど支出せず，出稼ぎ者ほどではないにせよ，生活費を切り詰めている。

しかし韓国では，中国朝鮮族の留学生は中国語と朝鮮語のバイリンガルであることを生かし，中国語の家庭教師・講師，中韓セミナー・貿易会社の通訳・翻訳等のアルバイトにつきやすい。日本における中国人留学生のように，飲食店等で単純労働のアルバイトをする人は少ない。日本にいる中国人留学生，及び，韓国で働く中国朝鮮族の出稼ぎ労働者に比べれば，経済的に余裕がある。留学生がアルバイトでつく仕事は，出稼ぎ者のそれとは異なり，労働条件が比較的良好で，差別等も少ない。

4．社会諸関係とコミュニティ形成

では次に，中国朝鮮族が韓国で形成している社会諸関係をみていこう（表4，5参照）。

(1) 出稼ぎ者の社会諸関係

まず出稼ぎ者の社会関係は，総じて希薄である。

出稼ぎ者は不法就労・不法滞在が多いため，摘発をおそれ，できるだけ多人数で集まらないように心がけている。職場では仕事に追われて友達を作る余裕もなく，また転職が頻繁なので誰かと知り合っても一時的なその場限りの関係が多い。そこで悩みの相談相手，及び，気楽な話し相手は主に中国にいた頃から知り合いだった朝鮮族が多く，「韓国では友達を増やす必要はない」という声が多く聞かれる。また相談相手や話し相手が「いない」と語る人も少なくない。出稼ぎ者の中では，話し相手とストレスの解消として「中国朝鮮族の集まりは必要である」と言いながらも，それは友達としての付き合いではなく，その場限りのものが多い。

出稼ぎ者が形成している唯一のコミュニティは，キリスト教会

を介した緩やかな集まりである。キリスト教会は，入国管理局の立入捜査を受けないので，不法就労の中国朝鮮族が唯一安心して，交流できる場になっている。キリスト教徒の出稼ぎ者の中には，ごく一部だが，「帰韓同胞」（韓国籍を取得した中国朝鮮族）を中心とした組織作りが必要だと感じている人もいる。

ただし実際に信仰をもち，組織を重視する出稼ぎ者は少数である。キリスト教会の中でも，政府と連携して合法的な出稼ぎ労働者だけを支援する教会もあれば，政府と対立しながら非合法の出稼ぎ労働者も支援する教会もあり，コミュニティの質は多様である。またキリスト教会は，もちろん人道的立場から出稼ぎ者を守るということもあるが，同時に中国国内の朝鮮族への布教の手がかりとして出稼ぎ者を位置づけ，帰郷する出稼ぎ者と同行して，その出身村で布教活動をしているケースもみられる。いわば，出稼ぎ者と教会は，信仰によって結ばれるだけでなく，互いに利用しあう持ちつ持たれつの割り切った関係でもある。実際，教会に集まっている出稼ぎ者の多くは，キリスト教徒ではない。中国にいる時に教会に通っていた人は13%にすぎず，韓国に来てから通い始めた人が42%を占める。キリスト教を本当に信仰していると答えた人は15%と少ない。多くは，「困った時に助けてもらうため」に，教会に通っている。教会での交流も，その場限りの一時的なものが多い。ストレスの多い出稼ぎ生活の中で，悩みの相談相手も少なく，一時的に中国朝鮮族どうしで集まって話し合い，ストレスを解消しているが，しかしそれは決して継続的に助け合える親しい友達を作るためではない。ましてそこを拠点に自分達の組織を作るような余裕は，出稼ぎ者には存在しない。

表4 出稼ぎ者の社会諸関係

			人数
来韓前の悩み相談相手（複数回答）	朝鮮族	1～5人	9
		5人以上	4
	韓国人	1～5人	5
		5人以上	1
	中国人	1～5人	0
	いない		10
来韓前の気楽に話す相手（複数回答）	朝鮮族	1～5人	6
		5人以上	9
	韓国人	1～5人	2
		5人以上	1
	中国人	1～5人	1
	いない		8
増やしたい友達（複数回答）	朝鮮族		7
	韓国人		4
	漢民族		2
	不必要		13
	その他		5
教会に通いはじめた時期	中国でも通っていた		4
	韓国に来て通い始めた		11
	通っていない		9
	無回答		2
教会に通っている理由（複数回答）	信仰心がある		4
	子どもによいと言うから		2
	友達が作れる		6
	その他		3
来韓後の親しい友人（複数回答）	漢民族	1～5人	10
		5人以上	4
	韓国人	1～5人	2
		5人以上	1
	いない		12
計			26

資料）実態調査より作成

(2) 留学生の社会諸関係

これに対し，留学生は多様な社会関係を積極的に構築している。

彼・彼女らは，韓国で悩みの相談相手，及び，気楽な話し相手を確保し，それは主に同じ地域出身の中国朝鮮族である。留学生には未婚者が多いので，結婚相手を探すという目的もあり，また留学情報を交換したり，スポーツ等の趣味を楽しむためにも，留学生どうしの交流・集まりが必要だと感じている。

故郷の家族や友達とも電話で連絡を取っており，中にはインターネットのメッセンジャーで頻繁に連絡している人もいる。数少ない既婚の留学生は，勉学のために子供を故郷の親に預けて面倒をみてもらい，あるいは親を呼んで韓国で面倒を見てもらっている人もいる。

総じて留学生は、中国朝鮮族相互の交流・協力関係を重視している。ただしそれは，すべての中国朝鮮族に開かれているわけではない。留学生の多くは，不法就労者を多く含む同じ出稼ぎ者と同一視されることを嫌い，同じ中国朝鮮族でも出稼ぎ者とは距離をとっており，両者の日常的接触・交流は少ない。

むしろ留学生のほとんどは，渡韓前から，仕事や学校で漢民族，及び，韓国人の親しい友人・知り合いをもっていた。これからも，漢民族の友達を増やしたいと考えている人が60%，韓国人の友達を増やしたい人は73%を占める。つまり中国・韓国の双方で，マジョリティとの関係を確保し，さらにそれを拡大しようとしているのである。

表5　留学生の社会諸関係

			人数
来韓前の悩み相談相手（複数回答）	朝鮮族	1～5人	9
		5人以上	2
	韓国人	1～5人	4
		5人以上	0
	中国人	1～5人	1
	いない		5
来韓前の気楽に話す相手（複数回答）	朝鮮族	1～5人	9
		5人以上	3
	韓国人	1～5人	1
		5人以上	1
	中国人	1～5人	3
	いない		3
増やしたい友達（複数回答）	朝鮮族		7
	韓国人		11
	漢民族		9
	不必要		1
	その他		2
教会に通いはじめた時期	中国でも通っていた		4
	韓国に来て通い始めた		2
	通っていない		8
	無回答		1
教会に通っている理由（複数回答）	信仰心がある		4
	家族がよいと言うから		1
来韓後の親しい友人（複数回答）	漢民族	1～5人	5
		5人以上	7
	韓国人	1～5人	8
		5人以上	1
	いない		2
計			15

資料）実態調査より作成

キリスト教会との関わりを見ると，留学生の中では，中国にいるとき，友人に連れて行かれたことを契機として韓国でも通い続けている人が27%，韓国に来てから通い始めた人は13%いる。ただし，教会に通っていない人も53%と過半数を占める。キリスト教会は半数弱の留学生にとって，信仰・交流の場となっているが，その場合も多様な社会諸関係の一環という位置づけにある。

5．民族・国民意識と将来指向

最後に，民族・国民意識，及び，将来指向についてみよう（表6，7参照）。

(1) 出稼ぎ者の社会意識

まず出稼ぎ者は，「中国は世界で注目を集めている国だから，中国人として誇りを感じる」とともに，「韓国は経済的に発展しているから，同じ民族として誇りを感じる」と思っている。そして，自分の子供に対しては，これからも学校教育も含めて朝鮮語で教育を受けさせたいと考える人と，家庭では朝鮮語を教えながら学校教育は中国語で教育を受けさせたいと思う人がほぼ拮抗している。総じて彼・彼女らは，生活の中で朝鮮民族の文化が役立つ場合はそれを積極的に活用し，中国国民であることが利益になる場合はそちらを積極的に活用しようとしている。また，朝鮮民族の文化を大切に守るべきだと考え，同じ朝鮮民族として韓国への出稼ぎをもっと自由にできるようにする中韓の国際ネットワークの拡大を求めている。

このように，出稼ぎ者は，中国と韓国（朝鮮民族）の双方に帰属意識をもっている。

しかし韓国は，彼・彼女らにとって所詮，定住の地ではありえず，「他郷」である。韓国では非合法の隠れ回る生活を余儀なくされ，職場等で韓国人に差別された体験も多い。出稼ぎ者にとって，韓国人のイメージは，同じ民族・「同胞」でありながら自分達を差別・排除する人々であり，決して良好なものではない。出稼ぎ者の多くは，金を稼ぎ，いつかは住み慣れた故郷・中国東北地方に帰りたいと考えている。

しかしまた，故郷の中国東北地方に帰っても，仕事はない。韓国での出稼ぎ労働は単純労働なので，ほとんどの場合，帰国後の新たな職業展望とはつながらない。ごく一部に，出稼ぎで稼いだ資金で故郷で飲食店の起業を夢見たり，故郷の経済発展への願望を口にする出稼ぎ者もいる。しかし大半の出稼ぎ者は，故郷の経済発展に悲観的で，諦めている。また，あまりに苛酷だった韓国での底辺労働者としての出稼ぎや差別の体験をふまえ，「帰国後は起業するより，稼いだお金でのんびり暮らしたい」と考えている。さらに彼・彼女らは，故郷と韓国の経済格差，及び，故郷の深刻な失業率の高さなどを考えると，できれば家族も韓国に呼び寄せて出稼ぎをさせたいとも願っている。

出稼ぎで「のんびり暮らせる」ほど貯金ができる保証もない。前述のように韓国でも長期にわたって失業状態におかれる出稼ぎ者も少なくない。斡旋業者に支払う費用も高額である。出稼ぎ者の中には，期待したほどの金が稼げず，そのために故郷の親戚・家族との関係が悪化したり，「韓国で苦労して金を稼いでも，中国に戻ればすぐスッカラカンになる」と語るケースもある。

総じて出稼ぎ者は，いつかは故郷で落ち着いて暮らしたいと願いつつ，実際には，働けなくなるまで出稼ぎを繰り返すしかない。彼・彼女らは，自らが帰属意識をもっている中国（東北地方）と韓国の双方が，いずれも安住の地ではありえないという現実を，日々実感せざるを得ないのである。

表6　出稼ぎ者の民族意識と将来指向

		人数
来韓前の差別体験（複数回答）	韓国人から差別体験がある	—
	漢民族から差別体験がある	4
	ない	10
来韓後の差別体験（複数回答）	韓国人から差別体験がある	17
	漢民族から差別体験がある	1
	ない	9
朝鮮族に必要なこと（複数回答）	朝鮮族の伝統的な民族文化を大切に守る	16
	国境を超えた朝鮮族のネットワークを大切にする	9
	朝鮮族の文化を利用して経済発展をする	8
子どもの教育	学校・家庭とも中国語教育	4
	学校・家庭とも朝鮮語教育	10
	学校では中国語、家庭では朝鮮語	10
	その他	2
韓国で感じたこと	中国人であることが利益になる場合、これを積極的に利用する	22
	中国は世界で注目されている国だから、中国人として誇りを感じる	20
	中国と朝鮮の2つの文化をもっているので、よいと感じる	21
	朝鮮族の文化が役に立つ場合、これを積極的に利用する	20
	韓国は経済的に発展しているから、同じ民族として誇りを感じる	14
アイデンティティ	中国人	6
	韓国人	2
	中国の朝鮮族	17
	無国籍	1
朝鮮族が解決すべき問題点（複数回答）	経済的に貧困	16
	お金のことをはっきりさせず、あいまいにすませる	16
	飲酒・つまらない娯楽が多すぎる	17
	良き伝統文化が崩れてきている	12
	金銭至上主義になっている	12
	付き合いや祝儀にお金がかかりすぎる	14
	親に対する責任が重過ぎる	9
	少数民族として中国国内で不利益がある	8
	改革開放に乗り遅れている	8
将来居住希望地	中国東北の故郷	19
	中国の沿海部地域	1
	韓国	5
	その他	1
韓国の滞在予定期間	2年以下	3
	2～3年間	6
	3～5年間	4
	5年以上	3
	お金を稼ぐまで	3
	働けるまで	4
	無回答	3
中国の家族の呼び寄せ	はい	18
	いいえ	7
	無回答	1
計		26

資料）実態調査より作成

(2) 留学生の社会意識

一方，留学生は，韓国で語学を生かした専門的なアルバイトに就けるため，差別された体験が少ない。そこで，韓国人に対してもあまりステレオタイプなイメージをあまりもたず，「いい人もいれば悪い人もおり，個人による」と感じている。

しかし同時に，「韓国人は，中国朝鮮族イコール出稼ぎ者というイメージをもっているため，留学生には不利」と感じている人もいる。また，韓国人の中国朝鮮族や中国人に対する差別意識を実感し，そうした立場からも，「国籍にこだわらない」個人主義的な生き方を志向する留学生も多い。

とはいえ，留学生は，完全に国籍や民族にこだわらない個人主義者にはなりえない。なぜなら彼・彼女らは，中国語と朝鮮語の

二カ国語ができることのメリットを実感している。中国では，朝鮮族であるがゆえに昇進・中国語の問題でハンディを感じてきたことも事実である。そこで自分の子供には，学校教育は中国語で，家では朝鮮語で育てたいと考える人が60%を占めている。さらに「中国は現在，世界で注目を集めている国だから，中国人として誇りを感じる」と語る人も多い。総じて留学生は，一方で朝鮮民族の文化や国際ネットワークを大切にしつつ，しかし他方で中国文化の吸収も重視している。

そして留学生は，韓国での留学生活を通して，「視野が広がり，考え方が変った」と感じる人が60%，「専門知識が増えた」と評価する人が47%を占めている。そのため，就職が厳しい中国にいる兄弟姉妹や子供を韓国に留学させ，専門知識を身につけさせたいと思う留学生も多い。しかし他方で，韓国での生活はやはり大変なので，家族を呼び寄せたくないと思う人もみられる。

留学生の過半数は，卒業後，韓国でしばらく働き，一定の経済基盤を作ってから，中国の大都市・沿海部都市に再移動したいと考えている。彼・彼女らは将来，大学教師・技術者などの専門職として，やりがいのある仕事につきたいと願っている。故郷である中国東北地方に帰りたいと考えている留学生はほとんどいない。

留学生にとって，韓国と中国（ただし東北地方ではなく，大都市・沿海部都市）は，自己実現を追求する舞台である。しかもその自己実現は，韓国と中国の二つの民族文化をもつという文化資本を基盤としているがゆえに，彼・彼女らは中国朝鮮族としてのアイデンティティを保持・再生産している。

表7　留学生の民族意識と将来指向

		人数
来韓前の差別体験（複数回答）	韓国人から差別体験がある	—
	漢民族から差別体験がある	2
	ない	10
来韓後の差別体験(複数回答)	韓国人から差別体験がある	2
	漢民族から差別体験がある	—
	ない	10
朝鮮族に必要なこと（複数回答）	朝鮮族の伝統的な民族文化を大切に守る	8
	国境を超えた朝鮮族のネットワークを大切にする	7
	ほかの民族のよい文化を積極的に吸収する	6
子どもの教育	学校・家庭とも中国語教育	1
	学校・家庭とも朝鮮語教育	5
	学校では中国語、家庭では朝鮮語	9
	その他	—
韓国で感じたこと	中国は世界で注目されている国だから、中国人としてほこりを感じる	8
	韓国は経済的に発展しているから、同じ民族として誇りを感じる	5
	中国と朝鮮の2つの文化をもっているので、よいと感じる	7
	中国･韓国の2つの文化とも中途半端だから、あまりよくない	5
	朝鮮族の文化が役に立つ場合、これを積極的に利用する	5
	中国人であることが利益になる場合、これを積極的に利用する	5
アイデンティティ	中国人	4
	中国の朝鮮族	9
	無国籍	2
朝鮮族が解決すべき問題点（複数回答）	経済的に貧困	9
	飲酒・つまらない娯楽が多すぎる	10
	良き伝統文化が崩れてきている	6
	金銭至上主義になっている	5
	男女差別がある	5
	改革開放に乗り遅れている	6
将来居住希望地	中国東北の故郷	1
	中国の大都市・沿海部都市	7
	未定	6
留学の成果（複数回答）	生活・人生に対する視野が広がり、考え方が変わった	9
	専門知識が増えた	7
	苦しくても頑張る忍耐力がついた	6
	韓国人の友達ができた	5
	中国人としての自覚・認識が深まった	5
卒業後韓国での滞在予定期間	すぐ帰国	2
	2年以下	3
	3～5年間	2
	5年以上	2
	未定	5
	無回答	1
中国の家族の呼び寄せ	はい	5
	いいえ	5
	未定	5
計		15

資料）実態調査より作成

6．韓国における中国朝鮮族の生活と社会意識

以上，韓国に移動・在留する中国朝鮮族の生活と社会意識の実態をみてきた。簡単に総括しよう。

韓国への移動の主な経路は，「出稼ぎ」と「留学」である。この両者には，いくつかの共通性がある。

まず第１に，彼・彼女らの移動は，中国国内の政治経済的要因，または少数民族としての中国朝鮮族の文化的独自性に基づくというより，根底的には世界資本主義，特に1990年代以降のグローバリゼーションに伴う資本と労働の国際移動の一環である。中国・韓国を含む東アジアのグローバル化が，中国東北地方の経済的衰退をもたらし，中国朝鮮族は「生きる」ために移動を余儀なくされた。このことは，低学歴で，リストラされた労働者・農民・無職層が多数を占める出稼ぎ者において，特に顕著である。しかし高学歴で専門職・管理職だった留学生もまた，中国東北地方・朝鮮族集住地域の経済的不安定化に伴い，将来に危機感・焦燥感をもち，更なるキャリアアップを求めて韓国に移動せざるを得なかった。親が韓国で出稼ぎをして資金を稼ぎ，子供を留学生として呼び寄せるケースもある。留学生と出稼ぎ者はともに，中国東北地方・朝鮮族集住地域の経済的停滞や格差の拡大を，深刻な問題と認識している。したがって彼・彼女らの移動に伴うエスニシティの変化は，単に異文化接触に伴う文化変容，または国家権力と少数民族の政治的関係性という観点だけでなく，国境を越えた経済・社会構造変動との関連で把握する必要がある。その意味で，文化人類学な民俗研究，及び，国民国家との関係のみに視野を限定した先行研究の限界は明らかといえよう。

第２に，出稼ぎと留学は，中国朝鮮族の「故国」とされる韓国への，言語（朝鮮語）を文化資本とした主体的・選択的な移動という点でも共通している。中国朝鮮族の韓国への出稼ぎは，「言葉ができる外国人低賃金労働力」としての移動である。留学もまた，韓国へのそれは言語的にみて，他国への留学に比べ，はるかに容易である。これらは確かに前述のようにグローバリゼーションの中で余儀なくされた移動だが，同時に，出稼ぎ者は故郷では得られない高収入を求め，留学生は新たなキャリア形成のステップとして，いずれも自ら主体的に選択した移動でもある。出稼ぎ者・留学生はともに，自らの文化を積極的に活用し，生活の可能性を広げようと越境する主体である。その意味でもまた，既存の文化を前提とした異文化接触，及び，国家との関係性に視野を限定した先行研究の知見は一面的といわざるを得ない。

さて，出稼ぎと留学には，もちろん大きな違いもある。

第１に，職業階層の違いである。出稼ぎ者はもともとリストラされた労働者，または農民・無職者であり，貧困層であった。出稼ぎ先でも不熟練労働者として劣悪な労働条件の下で働き，また

は失業している。被差別体験も多い。将来展望は不明確で，事実上，身体の自由がきかなくなるまで出稼ぎと帰郷を繰り返すしかない。一方，留学生は移動前から専門職・管理職で，留学先の韓国でさらに専門性を高めるとともに，複数文化を活用した専門的アルバイトに従事している。被差別体験は少ない。将来は中国沿海部でさらなる上昇移動を目指している。

第2に，国家，特に法律上の立場の違いも大きい。出稼ぎでは不法就労・不法滞在が多く，しかも合法と非合法の間に明確な断絶がない。不法状態にあるがゆえに，摘発を恐れて隠れ回り，仲間や家族との関係も構築・維持しにくい。職場も転々と移動せざるをえず，賃金不払いにあっても訴えることもできない。出稼ぎの斡旋業者との関係でも，詐欺や高利の借金が頻繁にみられる。これに対し，留学生は完全に合法状態にある。日本への留学の場合，高額の費用をとる斡旋業者の存在・偽造書類の作成，制限時間以上の単純労働でのアルバイト就労等，違法の要素があるが，韓国への留学の場合，そうした問題は少ない。留学生は家族・仲間を含む中国朝鮮族はもちろん，漢民族・韓国人とも良好な関係を維持・構築しやすい。同じ中国朝鮮族でも，違法な出稼ぎ労働者と同一視されたくないという意識も強い。

こうした差異をふまえれば，中国朝鮮族の生活・意識・文化が，決して一枚岩ではありえないことは明白であろう。経済的な階層格差の拡大，及び，国家の法的規制に基づき，中国朝鮮族は明らかに拡散・分極化しつつある。それはいいかえれば，複数の異なる中国朝鮮族の文化・アイデンティティの生成・創出でもある。

とはいえ最後に，そうした中国朝鮮族の拡散・分極化は，決して中国朝鮮族の「消滅」を意味しない。むしろ階層ごとにそれぞれ異なる形ではあるが，中国朝鮮族としての独自の生活やアイデンティティが新たな形で構築・再生産されつつある。

すなわちまず出稼ぎ者は，自ら帰属意識をもつ中国・韓国という二つのネイションのいずれにおいても，安住の地を見いだせなくなっている。だからこそ彼・彼女らは，この二つのネイションの間を越境することによってしか，自らの生活を維持できない。彼・彼女らの越境的生活空間においては，韓国の法律も，絶対的な「支配＝規則（rule)」として機能しない。それはいうまでもなく，中国の法律・法規制に対する態度へも連鎖せざるを得ない。また出稼ぎ者は韓国で，キリスト教会を通じて緩やかな社会関係を構築しつつある。キリスト教会のコミュニティは，失業中の住居確保，摘発からの防衛，医療，ストレス解消等，大きな役割を果たしている。しかも重要なことは，このコミュニティが信仰に基づく一枚岩的な組織ではなく，むしろ現実的な生活の必要に基づき，したがってその場限りでありながら着実に広がっていくリゾームだということである。中国東北地方と韓国を結ぶ越境的なリゾームが，中国朝鮮族の出稼ぎ者における新たな生活とアイデンティティの培養器となっている。

一方，韓国に移動する留学生は，日本など他国へのそれとは異なり，新たな言語習得の機会がない。そこで彼・彼女らは，中国と韓国の複数文化性を，自らの文化資本として，より強固に認識・活用せざるをえない。中国人であること，及び，朝鮮民族であること――つまり中国朝鮮族であること――は，彼・彼女らの生活戦略においてますます不可欠の要素となる。そしてここでは，中国沿海部・大都市，及び，韓国をつなぐ越境的な生活空間が構想される。故郷である中国東北地方は，もはや副次的意義しかもたない。

なお，こうした中国朝鮮族としての生活とアイデンティティが可能になる基盤は，世界システムにおける中国・韓国の相対的位置にある。出稼ぎ者・留学生はいずれも「中国が世界で注目されている国」であることに誇りを感じている。また朝鮮民族は，中国国内の単なるマイノリティではなく，世界レベルでは「先進」国をもつ民族である。中国東北地方・朝鮮族集住地域にとどまっていると実感しにくいこのようなメリットを，韓国への移動者は，その移動・滞在を通して体感する。だからこそ彼・彼女らは，朝鮮民族としての文化を維持し，朝鮮民族の国際ネットワークを重視する。同時に韓国に定住するより，むしろ中国に帰国して将来を展望したいと考える。もとより前述のように，出稼ぎ者と留学生では，その生活・意識には大きな違いがある。しかしそれでもそれらはいずれも国家（中国）と民族（朝鮮）という2つのネイションを，自らの生活・将来展望の資源・手掛かりとして活用していこうとする2つの異なる主体性の発現形態といってよい。そこには様々な葛藤を孕みつつ，2つのネイションの狭間で生きる中国朝鮮族としての固有のアイデンティティが確実に維持・再生産されている。

＊本研究は中国教育部大学基本研究基金，及び，中国教育部留学帰国基金から助成を頂いた。記して謝意を表する。
supported by “the Fundamental Research Funds for the Central Universities”JUSRP21101, The Project-sponsored by SRF for ROCS, SEM.

補　注

1）中国統計年鑑2010：9。
2）『東方時報』2003．11．27。
3）浅野慎一2004：20・29。
4）鄭信哲2000：86。
5）金東和・金承哲編1995，権春哲編1997，朴昌昱 1989，崔聖春編2002，潘龍海編2002。
6）鄭信哲2000，許明哲2001，韓景旭2001。
7）李光圭1994，李光圭2002。
8）佐々木衛・方鎮珠等2001，韓景旭2001。
9）金明姫2004，同2006。
10）浅野慎一2005：第3部第2章，同1997：第1部第2章等を参照。
11）金明姫2004。
12）雇用許可制は，製造業，建設業，農畜産業，サービス業等の分野で，従業員300人未満の事業所が，韓国人労働者を雇用できない場合，所定の手続きを経て（韓国語実務試験等），協定国から外国人労働者を正式に雇用できる制度である。韓国に親戚のある人には協定国以外の人でも「特別雇用許可制」が適用される。中韓両国は2007年4月に協定を結んでいる。
13）海外投資企業の海外の現地職員の技術の上昇と産業設備・技術などの海外移転を促進するため，1991年11月，海外投資企業

を対象に「産業技術研修制度」を導入した。期限は2年で，最低賃金の制約を受けてない。そのため研修という建前と不熟練労働力の確保という本音の乖離が大きく，未登録労働者の増加・賃金の不払い，暴行など人権侵害問題が続出した。韓国の最低賃金が51万ウォンであるに対し，産業研修生には長時間労働にもかかわらず20万ウォン程度しか支払われていない。

参考文献

浅野慎一，1997『増補版　日本で学ぶアジア系外国人』大学教育出版

浅野慎一，2004「中国人留学生・就学生の実態と受け入れ政策の転換」『労働法律旬報』No.1576

浅野慎一，2005『人間的自然と社会環境』大学教育出版

中国国家統計局編，2010『中国統計年鑑』中国統計出版社

韓景旭，2001『韓国・朝鮮系中国人＝朝鮮族』中国書店

金東和・金承哲編，1995『21世紀にかける中国朝鮮族－当代中国朝鮮族研究』集文堂

金明姫，2004「日本における中国朝鮮族の生活と意識」神戸大学『人間科学研究』11（2）

金明姫，2006「地域社会変動と移動者留守家族の生活」『地域社会学会年報』18

許明哲，2001『当代延辺朝鮮族社会発展対策分析』遼寧民族版社

権春哲編，1997『21世紀中国朝鮮族の歴史と文化－上』遼寧民族出版社

崔聖春編，2002『中国共産党延辺歴史大事記』民族出版社

佐々木衛・方鎮珠等，2001『中国朝鮮族の移住・家族・エスニシティ』東方書店

鄭信哲，2000『中国朝鮮族』新人間社

朴昌昱，1989「試論朝鮮族遷入及び其の歴史上の 問題」『朝鮮族研究論叢』1延辺人民出版社

潘龍海編，2002『延辺の未来－21世紀初期中国模範自治州形象研究と設計』民族出版社

李光圭，1994『在中韓人』日照閣

李光圭，2002『激動期の中国朝鮮族』白山書堂